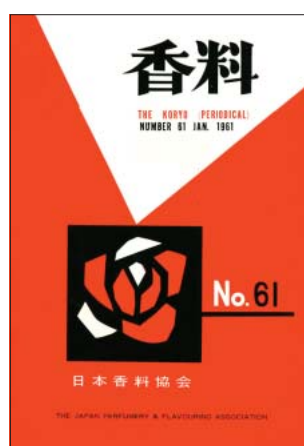


第61号 1961.2

青葉アルコール (大野稔)
ケツウ根の化学研究 (奥田治)
ハッカ属の問題(その4) (藤田安二)
日本の原種バラ“ハマナス”に就いて (手島龍雄)
フェニルエチルアルコールのエステル合成に就いて (西谷孝治)
或るオランダ人 (永井嘉彦)



第62号 1961.4

tert-ブチルクロメートによる第一および第二アルコール類の酸化 (松浦多聞・菅隆幸)
臭の分類及び表現特に余の立体説について (市原正雄)
テルペン・セスキテルペンにおける進歩 (Wilhelm TREIBS・中野真澄)
脱毛症に用いられる外用薬剤のはなし (大津吉朗・岩井美美子)
最近年における北海道産薄荷油の研究 金属の溶解性について (小野恒俊男・漆戸英雄)
リモネニルカルビノールとその誘導体 (須賀恭一・渡辺昭次)
松根油の利用に関する研究(第1~2報) (長沢徹・城代進)
シノ属とナギナタコウジュ属との関係 (藤田安二)
花のにおい ヒヤシンス

第63号 1961.6

香料とアレルギー(II) (高橋正夫)
においの分類学史におけるピースの香階説 (富樫英一)
薬用化粧品類の分析に関する研究 (武蔵俊雄・大津吉朗・岩井美美子・杉山晴美)
イロンの合成について (北島正栄)
合成ピペリテノンに関する疑問 (清水純夫)
松根油の利用に関する研究(第3~4報) (長沢徹・城代進)
香料生産及び輸出入実績表(昭和35年1~12月)

第64号 1961.9

欧米視察より帰りて (曾田政治)
調香技術者(その養成と訓練) (甲斐荘正泰)
宵待草の幻想 (宮下右)
薄荷研究の問題点とサッコ教授 (清水純夫)
ガスクロマトグラフィーによるテルペン類および香料関連化合物の分析—とくに固定相担体について (荒谷孝昭・古前恒)
メチルビニルケトンから誘導される香料 (新井秀男)
ハッカ属の問題(その5) (藤田安二)
西アフリカのコラの実 (T.A.ラッセル)

第65号 1961.12

食品工業の立場より香料業界に望む (小原哲二郎)
シトラールの合成に関する研究動向 (二木詮二)
合成香料原料として見直されたピネン (印藤元一)
フレーバーの処方は大変な仕事 (テオドル・アーウィン)
香水さまざま (橋爪檳榔子)
ギリシア神話におけるハッカの利用 (藤田安二)
香料・テルペン・精油化学討論会の反省 (長沢徹)

第66号 1962.2

蛋白質を多く含む食品のにおい (山西貞)
ピネン(最近の研究より) (印藤元一)
ハッカ属の問題(その6) (藤田安二)
最近のシンナミックアルコールの合成法について (志賀実)
アメリカの印象 (谷本利千代)
野狐禅 (宮下右)
北海道と香粧品 (伊藤昌明)

第67号 1962.7

ピネン (印藤元一)
ヒメハッカならびにその種間雑種類の精油精分 (清水純夫・池田長守・上田博夫・星野和美)
香料のガスクロマトグラフ分析における成分の同定 (岡村博・乗石澄子・田中タエ子)
龍涎香について (八木弥典)
匂いの錯覚 (長沢徹)
汀の野ばら (宮下右)
におい (園田治三郎)
韓国の薄荷事情 (八田知博)
昭和36年(1月~12月)香料生産輸出入実績

第68号 1962.9

香料研究随想 (平尾子之吉)
調合香料随想 (岡田金吉)
蛋白質を多く含む食品のにおい(II) (山西貞)
調合香料の成分分析 (大場琢磨・河合聰)
匂を創造する方法 (ジャン・カール 訳 外山孟生・坂口啓一)
ソフト・ドリンク (山崎三吉)
匂のモニター (杉山賢一)
印度駆歩る記 (永井嘉彦)

第69号 1962.12

余談旧約聖書と香 (日能英彦)
はっか属精油の研究(第1報) (松川正行・中山孟郎)
皮膚刺戟と化学構造に関する一考察 (相模成一郎・外山孟生・坂口敬一・山本義彦・秋本裕三・山崎果)
ビールの日光臭 (小鹿三男)
最近の食品添加物の効果的利用について (林敬一郎・以倉肇)
香料テルペンおよび精油化学に関する討論会に出席して (秋山孝)
サッコ教授“北見”へ (伊藤昌明)
バラ物語 (石原活磨)

第70号 1963.2

食物のにおい (赤堀四郎)
セスキテルペン樟の葉油について (広田直憲・広井満)
ローマウイキョウの栽培について (石原活磨)
ハッカ属の問題(7) (藤田安二)
最近の食品添加物の効果的利用について (林敬一郎・以倉肇)
香料ゼラニウムの精油分泌生理 (吉田照雄)
リナロールの絶対配置 (松井洗)